

# 高田宏 一周忌追悼公演

## 『言葉の海へ』

子を先だて、妻を失いながら、十七年を費やし、我が国初の国語辞書『言海』を完成させた大槻文彦の感動の物語。昨年十一月二十四日に亡くなった作家高田宏、渾身の名作再演決定！

「一国の国語は、外に対しては、一民族たることを証し、内にしては、同胞一体なる公義感覚を固結せしむるものにて、即ち、国語の統一は、独立たる基礎にして、独立たる標識なり。」 大槻文彦『広日本字典序論』より

父善彦と子(文彦)の、さらにその父祖の血の、切りようのないつながりのなかで『言海』は生れた。大槻一族というパターナリズム(家長主義)と、奥羽というリジョナリズム(地方主義)、日本というナショナリズムが、洋学という西欧合理主義に補強されながら、ひとつになつていった。

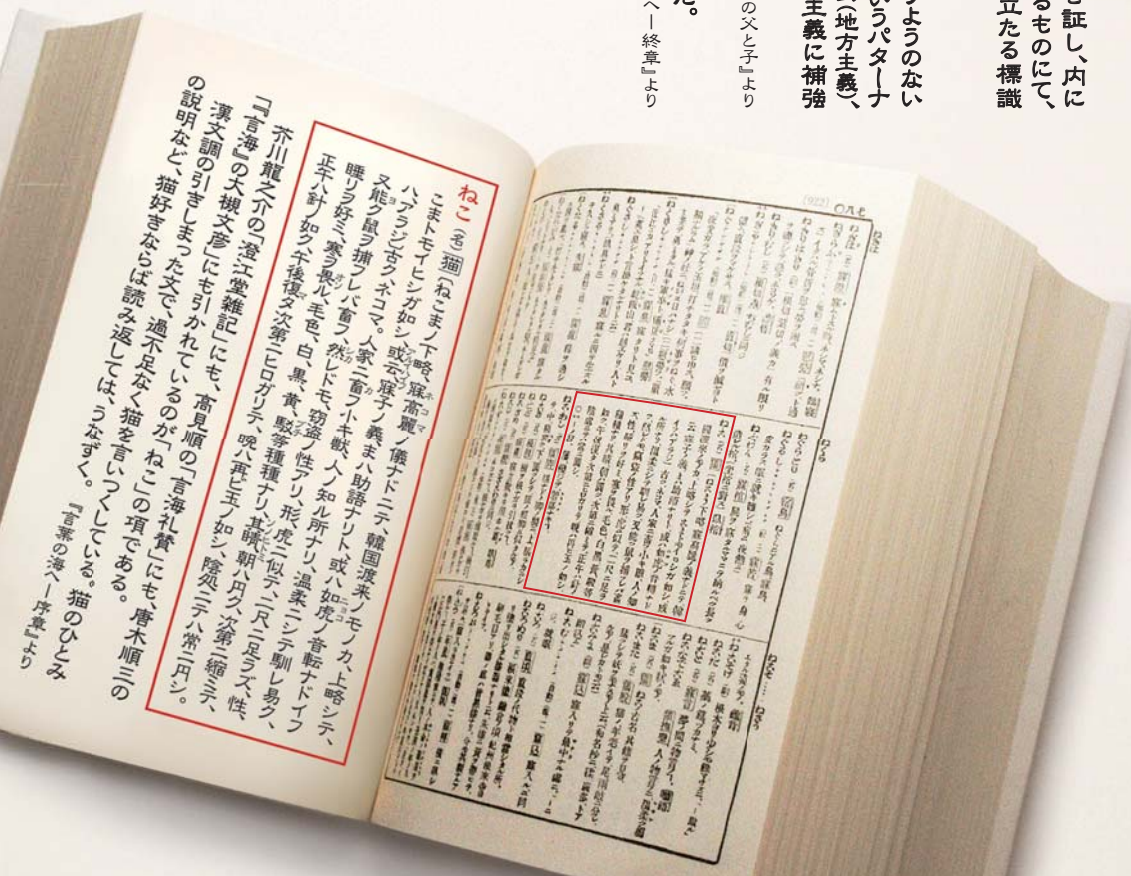
『言葉の海へ』第四章 戊辰の父と子』より

「仙台」は生涯、文彦のナショナリズムの根であった。

『言葉の海へ』終章』より



まっすぐに魂に届く言葉を揺らぐことなく書き続けた高田宏の代表作『言葉の海へ』による追悼公演。



【東京公演】

2016年

11月23日(水・祝) 14時／18時開演

\*各回共開場は開演の30分前

○会場 求道会館

○料金 3,500円

○予約・お問い合わせ

アトリエ花習

TEL 0600-6979-6768

micafe1990@gmail.com

【仙台公演】

11月25日(金) 14時／18時開演

\*各回共開場は開演の30分前

○会場 エル・パーク仙台スタジオホール

○料金 3,500円

○予約・お問い合わせ

コロロキンセンアワー

TEL 080-1999-0008

chinone\_toshiyasu\_office@yahoo.co.jp

助成／(公財)仙台市民文化事業団

(公財)宮城県文化振興財団

協力／せんだい演劇工房 NO-BOX

舞台監督工房 すずしろ

下北沢アレイホール 苦楽堂

企画／コロロキンセンアワー

出演 坪井美香  
茅根利安  
音楽 黒田京子  
脚本 坪井美香  
演出 笠井賢一

近代国家には近代国語辞書が要る。一国の国語の統一は、独立の基礎であり標識である。それなくして一民族たることを証することは出来ぬ。

いま、おれの『言海』がある。ウェブスターの英語辞書、リトルのフランス語辞書に比肩するには後日の増補が要るだろう。しかし、この国にはまだなかつた日本普通語辞書が、ここにある。独立の基礎たる国語の統一は、ここから出発する。

敷島ややまと言葉の海にして拾ひし玉はみがかれにけり 後京極

『言海』の終頁にかかげた歌である。書名の因るところであり、文彦の自負でもある。

『言葉の海へ―序章』より抜粋



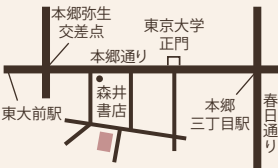
【上演歴】

2011年『言海』(東京)を皮切りに、笠井賢一と坪井美香は作家高田宏の人と作品の魅力を物語るシリーズを開始。2012年3月11日、東日本大震災の1年後に自然災害と人間を描いた『島焼け』。11月、『言古九谷』石川県九谷焼美術館10周年記念公演。翌年1月東京で再演。4月、東京築地本願寺本堂において、親鸞聖人750回忌記念公演として『島焼け』を改作し上演。2013年8月、コロナキンセンアワーとのタイアップで『言葉の海へ』を東京および仙台で上演。以来、2014年には石巻、(一ノ関)関図書館開館記念公演、寒河江と東北ツアーを行う。

【東京公演会場】  
求道会館

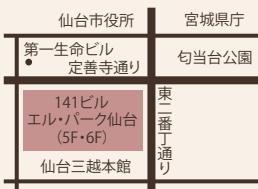
〒113-0033  
東京都文京区本郷6丁目20-5  
○地下鉄・南北線「東大前」駅徒歩5分  
丸の内線・大江戸線「本郷三丁目」駅徒歩15分

\*求道会館は、創立者近角常観(谷)かずみじょうかんが浄土真宗の信仰に基づき建設した教会堂で、優れた歴史的建造物として、東京都の指定有形文化財になっています。



【仙台公演会場】  
エルパーク仙台スタジアムホール

〒980-0811  
宮城県仙台市青葉区一番町4丁目11-1  
(仙台三越定禅寺通り館5階)  
○地下鉄・南北線「勾当台公園」駅  
南1番出口直結



坪井美香(つばいみか) 俳優

鶴川スタジオを経てフリー。プロデューサー公演で活躍。また関弘子に師事して「語り」を学び、レパートリーは古典から現代小説まで幅広い音楽、舞踊などのコラボレーション多数。「すずしろ」のメンバーとして全作品に出演。主な作品は「古事記」「大原御幸」(平家物語より)、折口信夫原作「死者の書」など。2011年に高田宏の著作を語るシリーズを開始。全作品の出演および脚本を手掛ける。



茅根利安(ちのねとしやす) 俳優 コロナキンセンアワー主宰

仙台市を拠点に40年間演劇活動を展開。バルテノン多摩小劇場フェスティバル優勝。下北沢演劇祭、愛知県芸術劇場フェスティバル招聘などを経験。1999年宮城県芸術選奨新人賞受賞。2011年東日本大震災からの心の復興を目指し「コロナキンセンアワー」をプロデュース。被災地支援公演や東京、ソウル公演を行う。また、『奥州おもてなし集団伊達武将隊』『二本松少年隊』の演出も手掛ける。



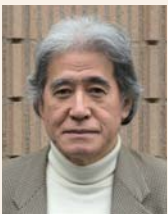
黒田京子(くろたきょうこ) 音楽家

'80年代後半、自ら主宰した「オルト」ではジャズだけでなく、演劇やエレクトロニクスの音楽家たちと脱ジャンルのな場作りを行う。90年代以降、坂田明(あき)などのバンドメンバーや、演劇や朗読、無声映画の音楽などを長期に渡って務める。04年から6年間余り、太田夏貴(なつたか)と翠川敬基(けいき)のピアノ・トリオで活動。10年から喜多直毅(なほ)と言葉と音楽の実験劇場「亂む音」を不定期に展開。13年ピアノ・トリオCD『沈黙の音』、14年喜多直毅とのデュオCD『愛の讃歌』を発表。



笠井賢一(かさいけんいち) 演出家・能楽プロデューサー

1949年生まれ。今尾哲也氏(歌舞伎研究)に師事。八世坂東三津五郎秋書として著作の助手を務める。古典と現代をつなぐ演劇活動を、能狂言役者や現代劇の俳優と展開。「古事記」から「源氏物語」「平家物語」、近松門左衛門、宮澤賢治、新作能まで幅広く演出。作家高田宏著作を語るシリーズを全て演出。語りと音楽の有機的な関係の創出を目指す。アトリエ花智代表。



高田宏(たかひろし) 作家

1903年京都生まれ、石川県育ち。京都大学(仏文)卒。光文社、アジア経済研究所、エッセイ石油で諸雑誌を編集。84年よりフリー。78年、『言葉の海』で大佛次郎賞と亀井勝一郎賞を、90年、『木に含む』で読売文学賞を受賞。他に、曹国文化賞、旅の文化賞など。著書、『言古九谷』『われ山に帰る』『島焼け』『子供誌』ほか約百冊。石川県九谷焼美術館館長、元深田久弥山の文化館館長。2015年11月24日、永眠。享年83歳。